



# わたしの聖戦

女性が働くことについて

183

医学ジャーナリスト・医学博士 植田美津恵

## 不寛容な社会が生むもの

昨年暮れから今年にかけて、相撲力士の暴行問題が話題になり、ひとりの横綱が引退した。

なにをどうしたって、

当時その場にいなければ、本当に起こったことは知りようがない。あれこれと推測ばかりが飛び交った結果、後味の悪さが残っただけであった。

闘いを生業とする若い男性たちが集まり酒を飲めば、やれスマホを見ていた、いやいや、先輩へのあいさつを怠ったなどといった小競り合いが勃発するのは良くあること。本人の意向がわからないまま、頭に傷を負った力士が被害者として祭り上げられ、騒ぎが大きくな

った。

結果として、何が残ったか？

暴力は良くない？もちろんその通り。でも、もう少し世間が寛容さを示し、彼らを守ることはできなかつたのだろうか？

相撲を国技というが、相撲に似た格技は世界中にある。外国人の力士ももはや珍しくもない。作法だ何だとそんなに目くじら立てなくてもいいではないか。理不尽な制裁を受け、才能ある優秀な人間の未来が閉ざされた。その責任は誰が取るのだ？

そうこうしていたら、年初めに、またもや相撲界での不祥事が起きた、

とマスコミが騒ぎ出す。今度は何かと思いきや、行司である式守伊之助が酔って若い行司にキスをし胸を触ったとのこと。気の毒に、この伊之助は60歳間近になって、たつたそれだけの事で一生をフイにしたのである。

たとえ男色であったとしても、その何が悪いのだろう。男色は、昔からある日本の文化だ。あえて、自分はそのケはないと口にせざるを得なかつた伊之助の心情を思うと、ただただ切ない。

ない。これでは国をあげての「いじめ」である。いったい、いつから日本はこんな不寛容な国になってしまったのだろうか。いい意味でのいい加減さやユーモアがなくなり、窮屈なことこの上ない。



その後も、社会の不寛容さは続いていく。秘め事を暴露され、周囲から糾弾され、仕事も信頼も失っていく。有名人であつても、うでなくても、自分だつて、いつそのような目に遭わないとも限らない。

私の生まれ故郷である福岡県田川市には、貴乃花部屋があり、九州場所の際には多くの力士がやってくる。貴乃花という屋号の居酒屋もある。かつての横綱、朝青龍は、この田川市にパチンコに通っていた。調子はどうか？と隣の客に聞かれ、まあまあかな、と気さくに笑う姿も見かけた。寛容さを失くした果てに、そのうち力士はギャンブル禁止などという取り決めがされるのでは？？冗談とも思えない予感が頭をよぎり、まさか、と慌てて否定した。

セクハラパワハラは良くない？もちろんその通り。でも、どうにかして周囲が丸く収めるといふ日本の慣習に従い、寛容な処理はできなかつたのか？

伊之助は、自ら男色ではない、と述べている。

イラスト・伊藤栄章